

地域計画

策定年月日	令和6年3月25日
更新年月日	令和7年3月31日 (第3回)
目標年度	令和15年度
市町村名 (市町村コード)	兵庫県多可郡多可町 (283657)
地域名 (地域内農業集落名)	中区 (中安田集落)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	31.8 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	27.2 ha
② 田の面積	30.4 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	1.5 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	3.4 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	7.0 ha
(参考)区域内における70才以上の農業者の農地面積の合計	15.9 ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	11.3 ha
(備考)	

注1:①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。

2:②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積(現況地目)に基づき記載してください。

3:④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。

4:⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。

5:(参考)の区域内における70才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。

6:「区域内の農用地等面積」に遊休農地が含まれている場合には、備考欄にその面積を記載してください。

(2) 地域農業の現状及び課題

・耕作者の半数が70代以上で高齢化が顕著である。今後ますます離農者が増えることで遊休農地の発生が懸念されることから、農家のみならず地域住民全体で支える農地利用の仕組みを構築することが必要となっている。
 ・水稲(主に山田錦)と黒大豆を中心に作付しているが、スマート農業機械の活用や団地化を進めることで農作業の効率化・省力化を図る必要がある。

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

・山田錦を主要作物として販売先の多様化を図り、経営の安定化を目指す。さらに農作業の効率化・省力化を図るため、ドローンやラジコン草刈り機等のスマート農業の導入を進めるとともに、地域の特産である黒大豆についても、水稲とのブロックローテーション等も実施し農地を有効活用する。あわせて、これまでから実施している環境保全型農業の取組を継続し、ほ場整備されていない一部農地は、農閑期に作業や収穫が可能な果樹へと転換し農作業の分散化を図り栽培方法を確立する。
 ・集落営農を法人化し、集落内の若年層を積極的に取り組むことで後継者の育成を図る。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1) 農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針			
・農地バンクへの貸付けを進め、地域の中心的な担い手への農地の集積・集約化を基本としつつ、集落営農組織を法人化し、集落全体で適切な農地利用を進める。			
(2) 担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標			
現状の集積率	34.7 %	将来の目標とする集積率	56.1 %
(3) 農用地の集団化(集約化)に関する目標			
これまで実施されてきた個々の賃貸借から、農地の団地化は進んでいない状況ではあるが、現状担い手が耕作する農地についてはある程度の区域に分かれているので、引き続き農地所有者の理解を得ながら、団地数の半減及び団地面積の拡大を進める。			

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1) 農用地の集積、集団化の取組	
・農地中間管理機構を活用して、認定農業者や集落営農組織を中心に団地面積の拡大を進めると共に、担い手への農地集約を進める。	
(2) 農地中間管理機構の活用方法	
・新規の貸借は農地中間管理機構に貸付、担い手の経営意向を斟酌し、担い手での受け入れが難しい場合は集落営農組織が受け入れ、段階的に集約化を進める。	
(3) 基盤整備事業への取組	
・多面的機能支払交付金の活用により修繕・整備を引き続き図っていく。	
(4) 多様な経営体の確保・育成の取組	
・関係機関と連携し、地域内外からの多様な経営体を募集するとともに、集落内の若年層にも積極的に働きかけ後継者育成を図る。	
(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組	

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input checked="" type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④畑地化・輸出等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨耕畜連携等	<input type="checkbox"/> ⑩その他

【選択した上記の取組内容】

- ①多面的機能支払交付金を活用し、獣害防止柵の点検と早期補修を引き続き行っていく。
- ②水稲・黒大豆を中心に環境保全型農業の取組を継続する。
- ⑤水稲・黒大豆等の収穫時に極力影響の無いような果樹の栽培を進め、閑散期の収益確保を進める。
- ⑦多面的機能支払交付金や各種補助金を活用し、農業施設の保全管理を集落全体で取り組んでいく。
- ⑧集落営農組織を強化するため、出荷・調整施設の新設と農業機械等の収納施設の新増設拡大を図る。

4 地域内の農業を担う者一覧(目標地図に位置付ける者)

属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状			10年後 (目標年度: 令和 15 年度)				
		経営作目等	経営面積	作業受託面積	経営作目等	経営面積	作業受託面積	目標地図上の表示	備考
認農	A	水稲、黒大豆	3.3 ha	- ha	水稲、黒大豆	4.8 ha	- ha	1	
認農	B	水稲、黒大豆	3.9 ha	- ha	水稲、黒大豆	4.4 ha	- ha	3	
集	C	水稲、黒大豆	3.9 ha	- ha	水稲、黒大豆	8.7 ha	- ha	4	
利用者	D	水稲、花き	3.9 ha	- ha	水稲、花き	4.2 ha	- ha	2	
利用者	E	水稲	0.6 ha	- ha	水稲	0.6 ha	- ha	5	
利用者	F	水稲	0.6 ha	- ha	水稲	0.5 ha	- ha	6	
利用者	区域内農地の利用者	水稲等	ha	ha		ha	ha	白地	
計	7経営体		16.2 ha	0.0 ha		23.2 ha	0.0 ha		

5 農業支援サービス事業体一覧(任意記載事項)

番号	事業体名 (氏名・名称)	作業内容	対象品目

6 目標地図(別添のとおり)

7 基盤法第22条の3(地域計画に係る提案の特例)を活用する場合には、以下を記載してください。

農用地所有者等数(人)	うち計画同意者数(人・%)

- 注1:「農用地所有者等」欄には、区域内の農用地等の所有者、賃借人等の使用収益権者の数を記載してください。
 注2:「うち計画同意者数」欄には、同意者数を記載してください。
 注3:提案する地区の対象となる範囲を目標地図に明記してください。

(留意事項)

農業を担う者を位置付ける際、これらの者の氏名が含まれた地域計画について、法令に基づく手続として、本人の同意なく、関係者の意見聴取や、地域計画の案の縦覧、地域計画の公告を行うことができますが、個人情報保有するに当たっては、利用目的をできる限り特定し、本人から直接書面に記録された個人情報を取得するときは、あらかじめ、本人に対し、その利用目的を明示してください。

また、市町村の公報への掲載等とは別に、インターネットの利用により関係者以外の不特定多数に対して情報を提供する場合は、氏名を削除するなど配慮してください。

必要に応じて区域内の農用地の一覧を参考として添付してください。